

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100364	事業の開始年月日	平成28年12月1日	
		指定年月日	平成28年12月1日	
法人名	株式会社三文サービス			
事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台			
所在地	(234-0054) 横浜市港南区港南台6-9-26			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和2年12月19日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月21日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染防止策の為、面会制限をしている事業所が多い中、弊社では産業医、安全衛生委員と連携を取り、できる限りの対面面会を継続しています。隣接地にある公園への外出支援や、誰でも取り組めるライフキネティックという体操の実施など、機能訓練にも積極的に取り組んでいます。また介護現場で最も多い事故事例である誤薬に対する対策として、開所当時から提携する薬局と連携し、服薬ロボットの導入を行い、誤薬事故を防止する取り組みも進めています。認知症介護の現場であることから、職員には積極的に専門資格である認知症介護実践者研修、同リーダー研修の取得を推し進め、認知症の高齢者様、そのご家族様を支え、寄り添った対応を心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月3日	評価機関 評価決定日	令和3年6月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR根岸線「港南台」駅より上大岡行きバスで「白杵」下車、徒歩2分の住宅街にあります。日本風の庭園がある広い敷地には同一法人が運営するデイサービスや小規模多機能型ホーム、有料老人ホームなど各種の介護事業を展開しています。

<優れている点>

広い敷地内は安全な散歩コースであり、他の介護事業の催事に参加する時も歩行練習になっています。新型コロナ感染防止対策として今後の対応もあり、玄関での非接触型の体温計による検温やアルコール噴霧器、高感度酸素飽和度の測定器など導入しています。非常災害対策として停電時の発電機、電気自動車による送電など、事故発生にも備えています。クラスター発生予防対策として陰圧テントなどの導入も予定しています。家族との面会方法も見直しています。社内にてLINE公式アカウントを開設し、家族とのビデオ通話面会の方法を行っています。

<工夫点>

8月よりタブレット端末を活用して定例の研修会を動画撮影し、不参加の職員も後日、視聴して研修内容を周知しています。職員が区分けしてみるにより研修会場の3密防止対策にもなっています。外部講師が実施する動画研修などから習得する介護の知識は職員のスキルアップにも繋がっています。ITを活用した服薬ロボットを導入し、服薬事故や誤薬事故などの防止に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確保する場がまだまだ不十分に思う。	利用者本人や家族から愛される事業所を目指し、信頼関係を築こうという法人の理念が玄関やリビングに掲示されています。毎年決算期の8月に管理者を中心に1年間の新しい目標を作成して管理者は職員のモチベーションを高めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で、多くの交流が中止されるようになり、日常的な交流は出来なくなった。しかしながら地域のボランティア様と連携し、感染防止対策を共有しながら、施設内での地域交流活動は少しずつ再開している。	今年は新型コロナ禍の影響でほとんどのイベントなどが中止せざるを得ない状況です。町内会に加入し、通常は地域の行事や催事に積極的に参加しています。法人の経営理念である「愛される企業」をモットーに地域住民との触れ合いに取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域展開についてはその計画のほとんどが、中止となっているが、情報発信の場として運営推進会議を利用している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活用し、身体拘束廃止に向けた取り組みの報告や意見交換を行うなどしている。また地域の実情などについて民生委員さんなどから共有をくださり、今後のサービスの質の向上に向けた取り組みへのヒントを頂いている。	今年度は新型コロナ禍のため会議の替りに書面による報告となっています。これまで参加している地域包括支援センターの職員、民生委員、町内会の役員へ活動状況や事故報告、行事予定などを報告し、その時、同封のアンケート用紙で回答を得るようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の担当者様と福祉避難所としての事業所の活用方法について相談を持ち掛けたり、運営推進会議の場など情報共有を行っている。	区の高齢障害支援課とは運営推進会議の会場や災害時の福祉避難所としての事業所の活用などについて打診を勧められています。横浜市のポイント事業に協力し、中高生の職業体験や敬老会、ハーモニカ演奏など社会活動に協力関係を築くよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一部職員の知識不足は否めないが、管理者をはじめ指導的立場の職員が日ごろから、不適切なケアの排除に目を光らせそのような行為に及びそうな職員が居たら、適宜指導するように徹底している。	契約時に運営規定の「虐待等の禁止」について利用者や家族に説明しています。毎週、法人代表も参加する「身体拘束に係る管理者会議」では、不適切なケアの有無について具体的な9行為を記載し、身体拘束などしないようチェックしています。毎年、行政が実行するアンケートを活用し検証しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に教育機会を設けて禁止行為についての共有を行っている。また不適切なケアについても管理者をはじめとした指導的立場の職員が日頃から注意を払いながら対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他に、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	滞りなく行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場を活用したり、日ごろからご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションに努め、ご意見やご要望を聞くようにしている。	今年の集会は中止していますが毎年、家族会を開き、事業所の運営状況などを説明しています。新型コロナ禍における家族との面会方法も見直し、家族とのビデオ通信面会が実現しています。職員や家族との距離も身近になり、意見や要望も把握しやすく成っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例のミーティングの機会を通して意見や提案を聞くようにしており、また適宜、管理者から職員の声掛けをして意見や提案を聞くようにしている。	管理者は毎日現場を巡回し、利用者や職員一人ひとりに声掛けし職員と話合っています。毎月のミーティングでは利用者の状況や改善、提案など話合っています。今年からタブレット端末を活用し社員研修を動画撮影し、非参加者もスキルアップしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	鋭意取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	鋭意取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を前提とした話し合いを行うことなく、ご本人ご家族のニーズを見極めて、適切なサービス提供につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事や手伝って頂けることは、出来る限り行って頂くことを基本として、職員もご利用者様とともに役割を持った関係性が維持できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、ご協力を仰いだり、相談しあいながら、ともにかかわっている意識を忘れないようにご家族に働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、多くの支障が出ているが、身近な人からの連絡が途絶えないよう、手紙や電話での交流など、できる事は継続している。	管理者は入居前に利用者宅を訪問し、今までの趣味や生活習慣などを把握して思い出が継続できるよう支援しています。家族や親族の協力で通い慣れた店での買い物や外食、正月の日帰り帰宅なども楽しみにしています。家族との携帯電話のやり取りなども支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることが無いよう、適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	こちらから直接連絡するようなことはしていないが、相談などが来た際にはきちんと対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活記録やアセスメントなどを整理しながら、ご本人との会話の中から希望や要望を吸い上げられるように努めている。	職員は利用者との日常のコミュニケーションから利用者の思いや意向の把握に努めています。新しく気が付いた事は申し送りノートなどに記録し、職員全員で共有しています。仕草や会話の中からしたい事やできる事など把握した時はケアプランに取入れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人を優先したサービス提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的に話し合いを行い、モニタリングやアセスメントの結果を通して、関係者にてカンファレンスを行い、介護計画には寧するように努めている。	モニタリングを日々繰り返し、変化の兆しが見られる時などは時系列に言動や行動を記録しています。本人や家族の変化に応じて随時、現状に即した介護計画を作成しています。基本的には6ヶ月毎に管理者や計画作成者などと話し合い、介護計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を取ることはもちろん、ご利用者様の様子に変化の兆しがみられるときなどは、特に細かく時系列に沿って、観察視点の共有と、細かい利用者の言動、行動の記録を行うよう徹底し、その結果を張寧するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しいものについても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のスーパーへの買い物や、公園への散歩など近隣の資源を活用した支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受信時は常に本人や家族の意向を伺うようにしている。	協力医療機関の医師が週一で往診をしています。個別の外来受診は家族同行が基本ですがケースバイケースで通院支援を行い、診察情報の共有をしています。毎日の健康管理は同法人の看護師2名が交代で個人記録に記載し提携先の医師と共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日法人内の看護師が巡回し、申し送りや連携を徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携医などの助言に基づき、カンファレンスを行い、書面にて共有している。	「重度化等に対する指針」に基づき、入居時に本人、家族などと確認を行っています。終末期の支援体制については、事業所で出来る具体的な支援の進め方を医療機関の医師を交えて策定し、本人・家族の意思を尊重しながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修に限らず、実際の現場でのOJTも行いながら実践につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施し、避難方法などを確認している。	年2回、利用者も含めて避難訓練を実施しています。10月には非常災害対策として停電を想定して発電機や電気自動車の電源を活用した給電の方法や消火器の使い方を訓練しています。訓練から出て来た避難する時の課題を共有して振り返りにつなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に常に敬意を払った対応するよう周知徹底している。	介助等の具体的な行為時は、利用者との目線を合わせた姿勢でわかり易く声掛けをしています。込み入った話は個人的な場所ですよう心掛けています。得られた個人の思いは定例会やリーダーミーティングで出し合い、共有化を図って更なる支援につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何気ない会話の中で、ご本人の希望やニーズを見出せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	プログラムは目安とし、体調や本人の気分などを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り本人と一緒に着替えなどを選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の体調なども考慮しながら一緒に行うように心がけている。 また定期的に鍋料理やお寿司の出前など楽しめるメニューなども提供している。	献立は法人の管理栄養士が策定し、食材調達には業者に依頼していますが、地域のスーパーや法人の畑の野菜も利用しています。利用者は配膳や盛り付けを中心に共同作業をしています。希望により鍋料理、そば、寿司などの特別食メニューの楽しみもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医や看護師、歯科医師などとも協力し、適切な形で提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士から助言を得ながら、口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表などを活用しながら、個別に声掛けを行い、トイレ誘導を行ったり、できる限りトイレに座る時間を作り、自立した排泄が続けられるよう支援している。	個人別の排泄パターン管理をしながらその人に合わせた誘導を行っています。トイレでゆっくり座る時間を作ることで、自立した排泄に繋がった事例もあります。便秘予防として水分管理・腹部マッサージやヨーグルトで自立排便に向けた取り組みをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取の在り方や、適切な薬でのコントロールなどを行って支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な順番は決まっているが、本人の希望を聞くようにし、入浴日を入れ替えたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。	入浴は週3回として順番を決めてありますが、個々の状況に合わせて柔軟に対応しています。基本は同性介助としています。利用者の大切な思いを聞く機会とコミュニケーションを培う場所として大切にして支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	無理に起こしたり、寝かしたりせず、本人の生活リズムに合わせて寝て頂くよう支援している。また機械による睡眠傾向の把握を行い、生活リズムが整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響により、隣接する公園への散歩程度しか行えていない。	近くには公園やスーパーマーケットがあり、天気の良い日は近隣の散歩に出かけています。併せて地域への挨拶運動としてゴミ拾いや通学路での声掛けを励行しています。家族などの来訪時には可能であれば家族同行での外出を依頼しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんど使う場面はなく、現金の所持については管理上の問題から行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ビデオ面会や電話、手紙での交流を支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを工夫したり、寒がりな人やトイレまでの歩行が困難な人など、席配置なども工夫しながら過ごして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有フロアに居ても、TVを見たり、ソファでくつろいだりできるように配慮している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り、好きなように家具の持ち込みやレイアウトして頂けるよう居室利用のルールは少なくしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境配備に努めている。	/	

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確保する場がまだまだ不十分に思う。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で、多くの交流が中止されるようになり、日常的な交流は出来なくなった。しかしながら地域のボランティア様と連携し、感染防止対策を共有しながら、施設内での地域交流活動は少しずつ再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域展開についてはその計画のほとんどが、中止となっているが、情報発信の場として運営推進会議を利用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活用し、身体拘束廃止に向けた取組みの報告や意見交換を行うなどしている。また地域の実情などについて民生委員さんなどから共有をしてくださり、今後のサービスの質の向上に向けた取組みへのヒントを頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の担当者様と福祉避難所としての事業所の活用方法について相談を持ち掛けたり、運営推進会議の場など情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一部職員の知識不足は否めないが、管理者をはじめ指導的立場の職員が日ごろから、不適切なケアの排除に目を光らせそのような行為に及びそうな職員が居たら、適宜指導するように徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に教育機会を設けて禁止行為についての共有を行っている。また不適切なケアについても管理者をはじめとした指導的立場の職員が日頃から注意を払いながら対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他に、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	滞りなく行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場を活用したり、日ごろからご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションに努め、ご意見やご要望を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例のミーティングの機会を通して意見や提案を聞くようにしており、また適宜、管理者から職員の声掛けをして意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	鋭意取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	鋭意取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を前提とした話し合いを行うことなく、ご本人ご家族のニーズを見極めて、適切なサービス提供につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事や手伝って頂けることは、出来る限り行って頂くことを基本として、職員もご利用者様とともに役割を持った関係性が維持できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、ご協力を仰いだり、相談しあいながら、ともにかかわっている意識を忘れないようにご家族に働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、多くの支障が出ているが、身近な人からの連絡が途絶えないよう、手紙や電話での交流など、できる事は継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることが無いよう、適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	こちらから直接連絡するようなことはしていないが、相談などが来た際にはきちんと対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活記録やアセスメントなどを整理しながら、ご本人との会話の中から希望や要望を吸い上げられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人を優先したサービス提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的話し合いを行い、モニタリングやアセスメントの結果を通して、関係者にてカンファレンスを行い、介護計画には寧するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を取ることはもちろん、ご利用者の様子に変化の兆しがみられるときなどは、特に細かく時系列に沿って、観察視点の共有と、細かい利用者の言動、行動の記録を行うよう徹底し、その結果を張寧するようしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しいものについても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のスーパーへの買い物や、公園への散歩など近隣の資源を活用した支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	受信時は常に本人や家族の意向を伺うようしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日法人内の看護師が巡回し、申し送りや連携を徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携医などの助言に基づき、カンファレンスを行い、書面にて共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期の研修に限らず、実際の現場でのOJTも行いながら実践につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施し、避難方法などを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に常に敬意を払った対応するよう周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何気ない会話の中で、ご本人の希望やニーズを見出せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	プログラムは目安とし、体調や本人の気分などを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り本人と一緒に着替えなどを選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の体調なども考慮しながら一緒に行うように心がけている。 また定期的に鍋料理やお寿司の出前など楽しめるメニューなども提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医や看護師、歯科医師などとも協力し、適切な形で提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士から助言を得ながら、口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表などを活用しながら、個別に声掛けを行い、トイレ誘導を行ったり、できる限りトイレに座る時間を作り、自立した排泄が続けられるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取の在り方や、適切な薬でのコントロールなどを行って支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な順番は決まっているが、本人の希望を聞くようにし、入浴日を入れ替えたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	無理に起こしたり、寝かしたりせず、本人の生活リズムに合わせて寝て頂くよう支援している。また機械による睡眠傾向の把握を行い、生活リズムが整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響により、隣接する公園への散歩程度しか行えていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんど使う場面はなく、現金の所持については管理上の問題から行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ビデオ面会や電話、手紙での交流を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを工夫したり、寒がりな人やトイレまでの歩行が困難な人など、席配置なども工夫しながら過ごして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有フロアに居ても、TVを見たり、ソファでくつろいだりできるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り、好きなように家具の持ち込みやレイアウトして頂けるよう居室利用のルールは少なくしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている。		

2020年度

事業所名 プラチナ倶楽部 グループホーム港南台

作成日： 2021年 6月 26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確保する場がまだまだ不十分に思う。	理念共有の機会に加えて、実践場面や定期的な面談機会を設けて、職員個々の理解度を確保できる時間を作り、より統一した支援につながるようにしていきたい	eラーニングを取り入れた研修の実施と研修に対するそれぞれの感想など、理解度を確保する機会を月に2回設ける。 勤務評価の機会を活用した個別面談の実施。	12ヶ月
2	2	新型コロナウイルスの影響による地域交流の制限があり、地域密着型サービスとしてその役割を果たせていない	感染終息を待つことなく、「今出来る事」を模索して、利用者様が地域の住民として過ごしていけるよう配慮する	感染防止対策を徹底したうえで、近隣のスーパーへの買い物支援、公園への散歩等、外出機会の創出、ご家族と連携し近隣への外出支援など実施していく	12ヶ月
3	13	新人教育は行っているものの、入職後数年経過した職員に関しては、研修以外に教育機会を提供できていない	新人期、1年後、3年後、5年以上等、経験に即した教育を実施していくよう体制を構築していく	eラーニングを活用した職種、経験に即した研修を取り入れる。常勤職員は積極的に外部研修に参加してもらい、正社員はスキルアップを毎年の目標計画の中に取り入れるなどし、常にスキルアップ環境を絶やさないようにしていく	12ヶ月
4	26	介護計画能力やモニタリング能力に欠ける職員が多く、管理者と計画作成担当者に負担がかかっている	介護福祉士資格取得者、正社員で協力して話し合いを行いながらチームとしてモニタリング、介護計画作成ができるようになる	まずはモニタリングを各自に行わせ、管理者、計画作成担当が、評価視点などの指導を行いながら、モニタリング能力をつけさせ、課題設定や具体的支援方法の立案法について教育していく	12ヶ月
5					ヶ月